



打上っ子だより

唐津市立打上小学校
令和8年1月9日(金)
第11号
文責 校長：山本 英俊

学校 HP こちら ↓



教育目標 地域や仲間を思い 夢に向かって輝く子どもの育成

新しい1年の始まり

令和8年、新しい1年が始まりました。保護者の皆様、地域の皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

3学期は短い学期ではありますが、令和7年度のまとめをしながら4月からの新年度につなげていく、とても重要な時期です。保護者・地域の皆さんとともに、充実した3学期の生活を創り上げていきたいと思ひます。これまで同様に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

3学期始業式

1月8日、体調不良等によるお休みもありましたが、多くの児童は元気に登校してきました。1時間目の始業式は、寒さや感染防止対策のため、子どもたちは各教室で放送を聞きながら行いました。

以下は、子どもたちへの話です。

全校のみなさん、明けましておめでとうございます。新しい一年のはじまり、3学期のはじまりです。登校日数は、2学期が80日ほどあったのに対し、3学期は50日ほどです。6年生はさらに少ないです。これまで以上に一日一日を大切に過ごしてほしいと思っています。

今日は、3学期始業式ということで、新たな始まりにふさわしい「ことわざ」をもとに話します。そのことわざは「一年の計は元旦にあり」です。

「一年の計」の計という字には、いくつか意味があります。計算・合計などで使われる「数える」という意味、体温計・時計などで使われる「はかる」という意味、計画・設計などで使われる「企てる・はかりごと」の意味です。ここにある「一年の計」での「計」は、企てる・計画するという意味で、「一年の計」というのは、「この一年をどうするか考える・計画する」ということです。「元旦にあり」というのは、「元日の朝、一月一日の朝がよい」ということです。ここまでを合わせると、「一年の計は元旦にあり」というのは、「新しい一年をどういう一年にしていくかを考えるのは、元日の朝、一日目の朝がよい」ということになります。

つまり、何かが始まる、何かを始める、という時は、その「初め」が最も大切です、だから物事を始めるときには、まず、自分自身で「これからどうしていきたいか」を考えて、しっかりと計画を立てることが大切です、と、このことわざは教えてくれているのです。

今日は3学期始業式で、始まりの日です。どういう一年にしていくか、また、どういう3学期にしていくかを考えるのに、ちょうどぴったりの日です。自分自身の目標やめあて、また、学級みんなでの目標やめあて、などについてそれぞれで考えてほしいと思ひます。

3学期もまた、日々の生活を積み重ねていく中で、「みんなの成長」と「みんなの安心」がたくさん感じられる打上小学校にしていけるといいなあとと思っています。

みんなで元気に、楽しく過ごしていきましょう。